

「西條」

令和4年度 第5号

「対話」を通して学びを深める生徒たちの成長 ～2学期の授業から～

研究主任 吉國 京子

西條中学校では、確かな学力の育成、主体的に学び、互いに認め合い、共に支え合う学級づくりに取り組む生徒の育成を目指しております。また、今年度より、金沢学院大学教授、多田孝志先生にご指導をいただきながら、「対話」を通して学びを深めていくことに重点を置き、日々の授業を行ってきました。

『「対話」を通して学びを深める』とは、一人一人の生徒が課題に対して、既存の知識や体験を基に自分なりの考えをもち、(対象物との「対話」)、次に他者と考えを共有すること(他者との「対話」)によって、他者との考えのズレに揺さぶられ、その結果、自分一人では捉えることができなかった新しい知見に出会い、更に、それらの知見から、もう一度自分の考えを振り返る(自己との「対話」)ことによって、自分の考えを再構築していくことにあると考えます。コロナ禍において、人と人との交流が限定されつつある中でも、その交流は本当に大切であり必要なことだと感じます。授業の中においても、友達や教師と直接的に交流し、相互の意見を共感的に聴き合い、多様な意見に触れ、相異やズレを活用し、新たな知の世界を共創していくことが学校で学ぶ大きな喜びであると感じます。

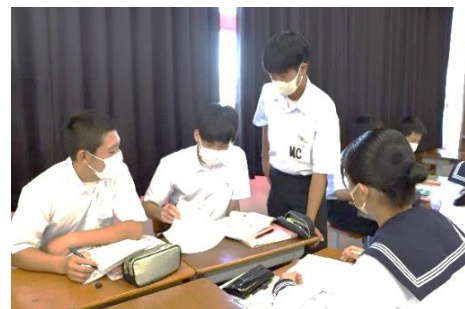
2学期の授業の様子から生徒たちの授業における「対話」を振り返ってみたいと思います。

1年生の保健体育科の授業では、「心の健康を保つためのストレスの対処法を考えよう」という課題において、生徒はそれぞれ自分の生活を基に、ストレスを感じる場面を想起しました。その後、グループで話し合い、ストレスの対処法について考えを出し合いました。更に、他のグループとホワイトボードを使って意見交流を拡大することで生徒たちは、新たな視点を発見していました。また、教師から、腹式呼吸法や音楽による対処法を学ぶことで、今後の生活の中で、状況に応じた適切な対処を取り入れ心の健康を保っていきたいと振り返っていました。



2年生の数学科の授業では、「多角形の内角の和の求め方を説明できるようにしよう」という課題において、生徒たちは、まず既習の三角形の内角の和が 180° であることを基に個人でじっくりと考えました。その後、グループで、多角形に補助線を引いて三角形に分けたり、表を使ったりしながら思考を重ね、規則性を見いだしていました。代表生徒が全体の前で説明することにより、さらに理解が深まりました。振り返りの場面では、友達の発言のよかった点や自分の言葉で説明することが達成できたか等について確認することで学びの深まりを実感していました。

3学年の英語科の授業では、「友達の紹介をするための新しい表現を学ぼう」という課題において、MC 担当の生徒の進行のもと、学習しました。新しい表現を含んだ動画を視聴し、グループで内容について話し合いました。グループでは、新しい表現の法則について自分の意見をグループのメンバーと交流し合った後、分かったことを教え合うことによって理解を深めました。更に、実際に新しい表現を用いてALTにクイズを出題することによって学習内容が定着し、意欲を向上させていく姿が見られました。そして終末には、友達との関わりという視点で授業を振り返りました。



生徒たちは、友達との直接的な交流の中でこそ得られる学びを重ねてきました。今後も、様々な問題や課題に対し、自己や他者との「対話」を通し、主体的・共働的に解決していく力を日々の授業を通して育んでいきたいと思っております。